

エコアクション21

環境活動レポート

2017 年度

(2016 年 10 月 ~ 2017 年 9 月)

作成年月日 : 2017 年 12 月 19 日

電協産業株式会社

目次

- I 組織の概要
- II 対象範囲
- III 環境方針
- IV 中期環境目標
- V 環境活動計画
- VI 環境活動の取組結果と評価
- VII 次年度の取組内容
- VIII 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
- IX 代表者による全体の評価と見直し

I 組織の概要

1. 事業者名及び代表者名

電協産業株式会社

代表取締役 日野 哲雄

2. 所在地

本社・工場	北九州市戸畑区中原東四丁目2番1号
福岡営業所	福岡市早良区飯倉五丁目7番2号
南九州営業所	宮崎市新名爪1663番地

3. 環境保全関係の責任者及び連絡先

環境管理責任者 徳山 久志

連絡先 TEL 093-861-1521
FAX 093-871-8232

4. 事業内容

化学工業薬品の販売 水処理薬品の販売
ブローワー・ポンプ・破砕機の修理及び販売
産業機器・環境機器の販売及び修理
水処理コンサルタント
建設資材の販売

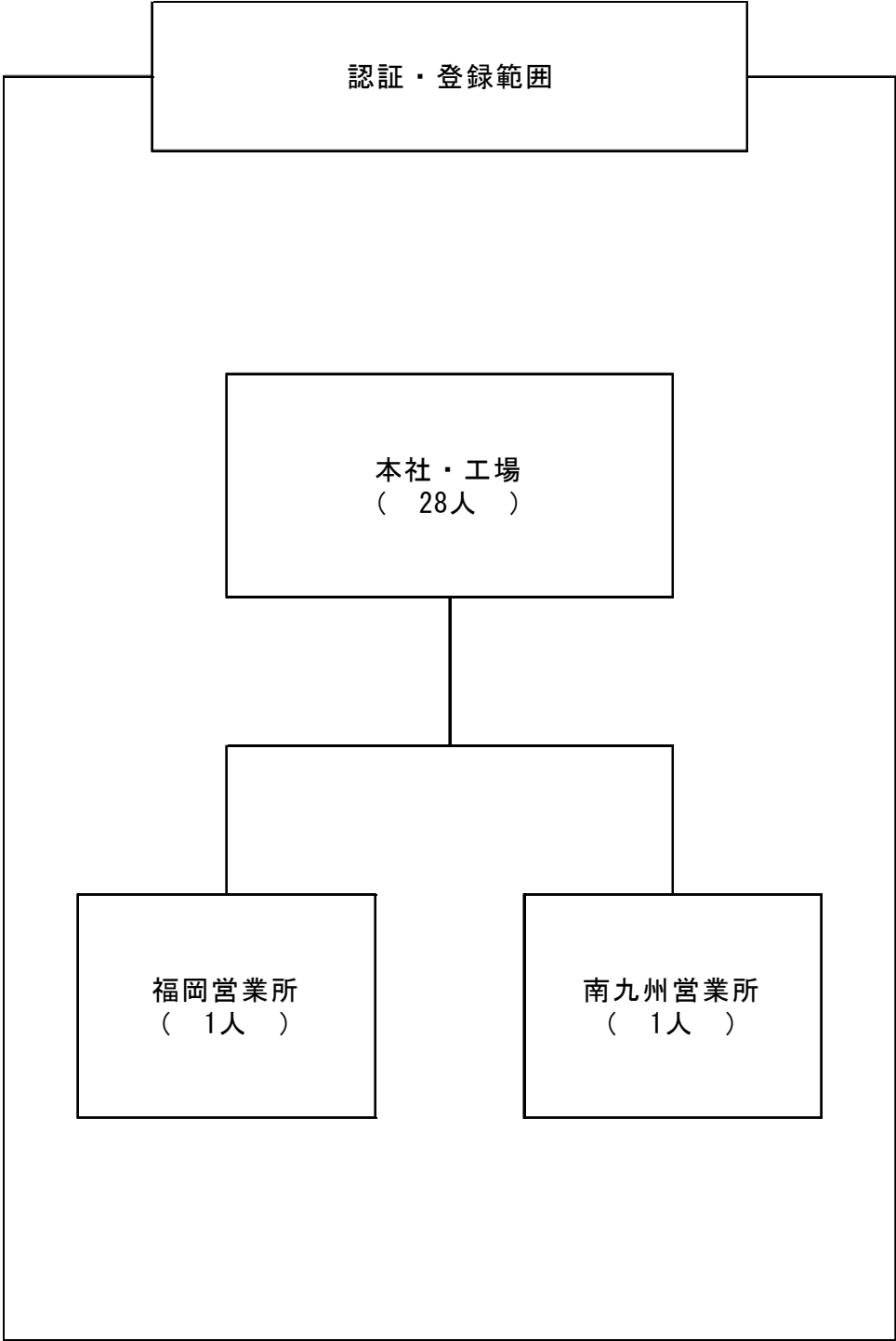
5. 事業規模

売上高	2017年度	10億円
従業員	30名	

6. 事業年度

自 2016年10月 1日 至 2017年 9月 30日

Ⅱ 対象範囲



Ⅲ 環境方針

電協産業株式会社は、送風機やポンプなどの産業用機器のメンテナンス及び販売、水処理に係わる化学工業薬品類及びその他の産業用の消耗品などの販売を主力とする企業です。これらの活動を通して資源の有効利用や排水処理に貢献してきており、環境問題にも真剣に取り組んできております。

一方、これらの企業活動を通じて環境にも負荷をかけており、環境問題が人類共通の最重要課題であることを認識するとともに、後世代に対しても安全で安心できる地球環境の保全を経営の最重要課題の一つとして活動を行います。

1. 事業活動における環境影響を考慮し、技術的、経済的に可能な範囲で、環境目的・目標を設定し、地球環境の保全及び汚染の予防に努めるとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
2. 環境関連の法律・規制・協定及び当社が合意したその他の要求事項を遵守します。
3. 事業活動において、以下の項目を重点項目として環境保全活動に取り組めます。
 - (1) 地球温暖化防止の為にエネルギー消費の低減
 - (2) 資源の有効利用
 - (3) 廃棄物の削減とリサイクル化の推進
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) グリーン購入の推進
 - (6) 環境にやさしい産業機器や消耗品及びサービスの普及・販売の推進
4. 環境方針は文書化し、全従業員に環境教育を実施し、環境保全の大切さを周知させ、本方針の実行および維持を図ります。
5. この環境方針は社外にも公開し、一般の人が入手可能とします。

制定日：2009年 8月 1日

改定日：2011年 4月 1日

電協産業株式会社

代表取締役 日野 哲雄

IV 中期環境目標

環境目標	単位	基準年度	目 標			
		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	
1	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	133,970	0.5 % 削減	1 % 削減	1.5 % 削減
1-1	電気使用量	kWh	43,122	0.5 % 削減	1 % 削減	1.5 % 削減
1-2	ガソリン使用量	ℓ	24,609	0.5 % 削減	1 % 削減	1.5 % 削減
1-3	軽油使用量	ℓ	19,559	0.5 % 削減	1 % 削減	1.5 % 削減
2	廃棄物排出量	kg	1,590	0.5 % 削減	1 % 削減	1.5 % 削減
3	排水量(給水量)	m ³	550	0.5 % 削減	1 % 削減	1.5 % 削減
4	販売先新規件数	件	30	30 件	30 件	30 件
5	化学物質使用量	kg	23	0.5 % 削減	1 % 削減	1.5 % 削減
6	グリーン購入	環境配慮型製品を優先的に購入する。				

○ 電力の排出係数は、九電の平成26年度の 0.584kg-co2 を採用

V 環境活動計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減

- ・ エアコン室内温度（暖房 22℃ 冷房 26℃）
- ・ エアコン未使用時電源 OFF
- ・ エアコン効率向上（定期的にフィルター清掃）
- ・ 離席時消灯
- ・ 昼休みのパソコンスイッチ OFF
- ・ 使用していない会議室・休憩室は、消灯
- ・ 工場で使用していない機械は、電源元よりコンセントを抜く
- ・ 工場で作業中、水銀灯等は作業箇所のみ照明する。

(2) ガソリン・軽油使用量の削減

- ・ 急発進・急加速は行わない
- ・ 空ぶかし防止
- ・ ゆとりをもった車間距離運転(前後左右)
- ・ 公共機関の活用
- ・ 長時間(3分以上)のアイドリングは禁止
- ・ 積載オーバーの禁止(不要な荷物は積まない)
- ・ 法定速度厳守

2. 一般廃棄物排出量の削減

- ・ 分別の徹底（リサイクル化の推進）
（古紙・ダンボール・缶・瓶・ペットボトル・金属・
廃木材・廃プラ・がれき 等の分別）

3. 排水量(給水量)の削減

- ・ 節水シール貼付
- ・ 水の漏洩の点検

4. 販売先新規件数

- ・ 計画的な営業活動により新規開拓

5. 化学物質使用量の削減

- ・ 化学物質を含む薬品を節約

6. グリーン購入

- ・ 環境配慮型製品を優先的に購入する

VI 環境活動の取組結果と評価

環境目標	単位	目標	実績	差引	目標達成の判定
		2017年度	2017年度		
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	133,300.2 以下	128,684.6	-4,615.5	○
電気使用量	kWh	42,906.4 以下	43,476.0	569.6	×
ガソリン使用量	ℓ	24,486.0 以下	19,273.0	-5,213.0	○
軽油使用量	ℓ	19,461.2 以下	22,195.0	2,733.8	×
廃棄物排出量	kg	1,582.1 以下	1,580.0	-2.0	○
排水量(給水量)	m ³	547.3 以下	546.0	-1.3	○
販売先新規件数	件	30.0 以上	31.0	1.0	○
化学物質使用量	kg	22.9 以下	20.7	-2.2	○
グリーン購入	環境配慮型製品を優先的に購入する。				○

○ 電力の排出係数は、九電の平成26年度の 0.584kg-co₂ を採用

1. 二酸化炭素排出量の削減

下記のように、電気使用量の削減活動と、ガソリン・軽油使用量の削減活動を行った結果、二酸化炭素排出量については、目標値 133,300.2 kg-CO₂ に対して、実績 128,684.6 kg-CO₂ と、目標値を 4,615.5 kg-CO₂ 下回る事が出来ました。来年度も二酸化炭素排出量削減活動を着実に実行致します。

(1)電気使用量の削減

蛍光灯 1 個 1 個スイッチを取付けて、無駄な照明を無くした。

離席時消灯、使用していない会議室・休憩室は消灯、各々のドアにスポンジテープを貼って冷暖房効率 up、エアコンフィルターの定期的清掃、Tシャツを配布し、クール・ビズ取組。ロールスクリーン設置等省エネに取組んだが、目標達成する事は出来ませんでした。

(2)ガソリン・軽油使用量の削減

毎月、ガソリン・軽油使用量の削減チェックリストに自己評価している。

2016年にハイブリット車 2 台購入し、効果が出た。来年も 1 台購入予定です。

事前アポイントによる効率的な走行ルート。

九州新幹線等公共交通機関の活用により、効果が出た。

2. 一般廃棄物排出量の削減

分別の徹底（リサイクル化の推進）により、目標値を 2.0 kg 下回る事が出来ました。

3. 排水量(給水量)の削減

各蛇口に、節水のシールを貼り、節水に取組んだ結果、目標値を 1.3m³ 下回る事が出来ました。

4. 販売先新規件数

計画的な営業活動により新規開拓、事前アポイントによる有効面談件数の増加。

目標値 30 件 に対して、実績 31 件と、目標を達成

する事が出来ました。来年も目標値 30 件にて頑張ります。

5. 化学物質使用量の削減

化学物質を含む薬品の使用量を節約した結果、目標値 22.9 kg に対して、実績 20.7 kg と、目標値を 2.2 kg 下回る事が出来ました。

6. グリーン購入

コピー用紙、プリンターインク、工事写真帳、クラフトテープ、布テープ、養生テープ 等、環境配慮型製品を優先的に購入しております。

Ⅶ 次年度の取組内容

1. 二酸化炭素排出量の削減
 - (1)電気使用量の削減
 - ・ エアコン室内温度（暖房22℃ 冷房26℃）
 - ・ エアコン未使用時電源OFF
 - ・ エアコン効率向上（定期的にフィルター清掃）
 - ・ 離席時消灯
 - ・ 昼休みのパソコンスイッチOFF
 - ・ 使用していない会議室・休憩室は、消灯
 - ・ 工場で使用していない機械は、電源元よりコンセントを抜く
 - ・ 工場で作業中、水銀灯等は作業箇所のみ照明する。
 - (2)ガソリン・軽油使用量の削減
 - ・ 急発進・急加速は行わない
 - ・ ゆとりをもった車間距離運転(前後左右)
 - ・ 公共機関の活用
 - ・ カーナビを使った効率的な走行ルート
2. 一般廃棄物排出量の削減
 - ・ 分別の徹底（リサイクル化の推進）
（古紙・ダンボール・缶・瓶・ペットボトル・金属・
廃木材・廃プラ・がれき 等の分別）
3. 排水量(給水量)の削減
 - ・ 水をこまめに止める
 - ・ 水の漏洩の点検
4. 販売先新規件数
 - ・ 計画的な営業活動により新規開拓
5. 化学物質使用量の削減
 - ・ 化学物質を含む薬品を節約
6. グリーン購入
 - ・ 環境配慮型製品を優先的に購入する

Ⅷ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規制等の順守状況の自己評価の結果、環境法規制等の違反はありませんでした。
又、関係当局及び近隣住民からの指摘、苦情、訴訟等もありませんでした。

Ⅸ 代表者による全体の評価と見直し

社員全員が地球環境保護という目的に対し、全員参加し、実践しなければいけない。
全体的には、環境に対する意識は向上してきたと思っている。
九州新幹線等の公共機関を活用し、燃料や時間の節約をしている。
今後もおおいに公共機関の活用を図っていく。
又、昨年に、車を2台ハイブリッド車に買替え、ガソリンの使用量が大幅に減少しました。
今後も順次、エコカーに買い替えていく。